

5.1 教育活動への関わり

防災研究所における教育活動としては、学内における教育活動と学外における教育活動に大別される。学内における教育活動には、卒業論文・修士論文等の執筆指導を含む学生に対する講義・研究指導ならびに研究生・研修員の受け入れと指導等が含まれる。また、学外における教育活動としては、他大学・大学院における非常勤講師としての講義の他に、

一般人を対象とした講演や講義等も含まれる。

大学における教育活動は、研究活動と両輪をなし、両者は密接不可分のものである。このことは研究所においても例外ではなく、ある程度の教育活動を担ってゆくべきものであるが、研究活動との兼ね合いをどの程度にするかは検討課題である。

5.2 大学院教育

防災研究所の各研究分野・領域は、理学研究科地球惑星科学専攻、工学研究科社会基盤工学専攻、同都市社会工学専攻、同建築学専攻および同生活空間学専攻、情報学研究科社会情報学専攻、地球環境学堂の協力講座として、大学院教育に携わっており、教授・助教授はそのほとんど全てが何れかの講義を担当している。大学院の講義を担当している助手は少ない。

平成 14～16 年度に、防災研究所の教員が担当した大学院担当講義科目および担当教員名を表 5.2.1 に示す。

表 5.2.2 には、他大学院における講義名と担当教員を示す。非常勤講師として講義を担当しているのは、平成 14～16 年度において 14 大学院 14 名である。平成 12～14 年度では 12 大学院 14 名であった。大学院名は、以下の通りである。

愛媛大学大学院理学研究科
岡山大学大学院理学研究科

金沢大学大学院自然科学研究科
京都府立大学大学院農学研究科
神戸大学大学院自然科学研究科
滋賀県立大学大学院環境科学研究科
千葉大学大学院自然科学研究科
筑波大学大学院生命環境科学研究科
東京電気大学大学院理工学研究科
富山大学大学院理学研究科
名古屋大学大学院工学研究科
名古屋工業工学研究科
新潟大学大学院自然科学研究科
北海道大学大学院地球環境科学研究科

平成 14-16 年度の期間に防災研究所で受け入れ、防災研究所の教員に研究および論文執筆の指導を受けた大学院生の数を、以降、表 5.2.3 および表 5.2.4 に示す。

博士課程の学生は、毎年度 70 名以上である。一方、修士課程は 100 名前後の学生が研究指導を受けている。博士課程および修士課程の学生数の合計は平成 12～14 年度の調査

に比して増加しており，大学院重点化の効果が現れている。ただし，社会人学生はいない。また，日本人の博士学生の数は少しずつ減っている。これは，博士課程在学中の経済的な自立に関する問題とともに，学位修得後の研究職獲得の難しさや，常勤ポストが限られていることから，卒業後の研究者としての身分が不安定であることなどが原因であると考えられる。

表 5.2.5 は，防災研の教員に係った学位論文の一覧をまとめたものである。博士学位授与に関して本研究所教員が主査となっている件数は，平成 14 年度 19 件，15 年度 25 件，16 年度 27 件となっており，平成 14 年度自己点検評価時より大幅に増加した。内訳は，理学が 30 件，工学が 39 件，情報学が 2 件である。

また，修士の学位授与に関しては表 5.2.6 に示すとおり平成 14 年度 50 件，平成 15 年度 43 件，平成 16 年度 46 件であり，平成 14 年度自己点検評価時より減少した。

過去三年間の大学院修了・卒業者の就職先は表 5.2.7 に示すように，多岐にわたっているが，国内の大学へ教員等としての採用は 18 件であり，全就職者数の 12%である。

近年，科学技術庁特別研究員，他大学 COE 研究員など期限付き研究職に就く者も増えてきたが，社会全体としての流動的なポストが限られている現在において，研究者の身分は依然として不安定であり，常勤ポストへの就職は依然不透明な状況である。

表 5.2.1 大学院担当講義課目一覧

研究科名	年度	科目名	教官名
理学研究科	14-16	応用地震学	赤松純平
理学研究科	14-16	応用地震学ゼミナール	赤松純平
理学研究科	15-16	地震テクトニクスA	飯尾能久
理学研究科	15-16	地震テクトニクスB	飯尾能久
理学研究科	15-16	地震テクトニクスゼミナール	飯尾能久
工学研究科	14-16	社会基盤工学総合セミナーCI	井合 進
工学研究科	14-16	水際地盤学	井合 進
工学研究科	14-16	地盤工学セミナー	井合 進
理学研究科	14-16	応用気象学ゼミナール I	井口敬雄
理学研究科	14-16	環境地球科学 II	井口正人
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナール II	井口正人
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	井口正人
工学研究科	14-16	水文循環工学	池淵周一
工学研究科	15-16	都市環境工学セミナーA	池淵周一
工学研究科	15-16	都市環境工学セミナーB	池淵周一
工学研究科	15-16	都市環境工学演習A	池淵周一
工学研究科	15-16	都市環境工学演習B	池淵周一
工学研究科	15-16	都市環境工学論	池淵周一
工学研究科	15-16	都市環境工学特別セミナーA	池淵周一
工学研究科	14	環境地球工学演習B	池淵周一
工学研究科	14	環境地球工学演習A	池淵周一
工学研究科	14	水文学	池淵周一
工学研究科	14	環境地球工学セミナー	池淵周一
工学研究科	14	環境地球工学特別演習	池淵周一
工学研究科	14	環境地球工学特別セミナー	池淵周一
工学研究科	14	水理学特論	石垣泰輔
工学研究科	14	土木工学セミナー2	石垣泰輔
工学研究科	15-16	防災水工学	石垣泰輔
工学研究科	15-16	水工学セミナー	石垣泰輔
理学研究科	14-16	応用気象学II	石川裕彦
理学研究科	14-16	応用気象学ゼミナールII	石川裕彦
理学研究科	14-16	地球物理学特殊研究	石川裕彦
理学研究科	14-16	環境地球科学 II	石原和弘
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナール II	石原和弘
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	石原和弘
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナール II	石原和弘
理学研究科	14-16	環境地球科学 I	伊藤 潔
理学研究科	14-16	地震計測法	伊藤 潔
理学研究科	14-16	地震計測法ゼミナール	伊藤 潔
工学研究科	14	沿岸水理学	井上和也

工学研究科	15-16	水工学セミナー	井上和也
工学研究科	15-16	社会基盤工学演習A	井上和也
工学研究科	15-16	社会基盤工学演習B	井上和也
理学研究科	14-15	応用地震学	入倉孝次郎
理学研究科	14-15	応用地震学ゼミナール	入倉孝次郎
理学研究科	14-16	応用気象学ⅠA・ⅠB	岩嶋樹也
理学研究科	14-16	応用地震学ゼミナール	岩田知孝
理学研究科	14-16	応用気象学ⅡA, ⅡB	植田洋匡
理学研究科	14-16	応用気象学ゼミナールⅡ	植田洋匡
理学研究科	14-16	地震情報処理論	梅田康弘
理学研究科	14-16	地震情報処理論ゼミナール	梅田康弘
理学研究科	16	環境地球科学ⅠA, ⅠB (補佐)	汪 発武
理学研究科	16	環境地球科学ゼミナールⅠ (補佐)	汪 発武
理学研究科	16	地球惑星科学特殊研究 (補佐)	汪 発武
地球環境学堂	16	環境地球科学ⅠA (補佐)	汪 発武
理学研究科	15	環境地球科学ⅠA (補佐)	王 功輝
理学研究科	15-16	環境地球科学ⅠB (補佐)	王 功輝
理学研究科	15-16	環境地球科学ゼミナールⅠ	王 功輝
理学研究科	15-16	地球惑星科学特殊研究	王 功輝
地球環境学堂	16	環境地球科学ⅠA	王 功輝
理学研究科	14-16	応用地球電磁気学A	大志万直人
理学研究科	14-16	応用地球電磁気学B	大志万直人
理学研究科	14-16	応用地球電磁気学ゼミナール	大志万直人
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	大志万直人
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	大見士朗
理学研究科	14-16	地殻変動論ゼミナール	大谷文夫
工学研究科	14-15	都市水文システム	岡 太郎
工学研究科	14-15	都市社会計画総合セミナー	岡 太郎
工学研究科	14-15	ライフライン工学総合セミナー	岡 太郎
工学研究科	14-15	社会基盤マネジメント総合セミナー	岡 太郎
工学研究科	14-15	都市社会工学特論	岡 太郎
工学研究科	14	建設マネジメント	岡田憲夫
工学研究科	15-16	リスクマネジメント論	岡田憲夫
工学研究科	14-16	キャップストーンプロジェクト	岡田憲夫
工学研究科	14-16	都市社会工学セミナー	岡田憲夫
理学研究科	14-16	地殻変動論ゼミナール	尾上謙介
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	片尾 浩
理学研究科	14-16	地震発生機構論ゼミナール	片尾 浩
理学研究科	14-16	環境地球科学ⅢA	釜井俊孝
理学研究科	14-16	環境地球科学ⅢB	釜井俊孝
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅠ	釜井俊孝
工学研究科	14-16	風環境工学	河井宏允
工学研究科	14-16	建築学特別演習Ⅰ	河井宏允
工学研究科	14-16	建築学特別演習Ⅱ	河井宏允
工学研究科	14-16	建築構造学セミナーⅠ	河井宏允
工学研究科	14-16	建築構造学セミナーⅡ	河井宏允

工学研究科	14-16	建築構造学セミナーⅢ	河井宏允
工学研究科	14-16	建築構造学セミナーⅣ	河井宏允
工学研究科	14-16	先端建築学特論Ⅱ	河井宏允
理学研究科	14-16	地震発生機構論ゼミナール	川方裕則
理学研究科	14-16	地震発生機構論A	川崎一朗
理学研究科	14-16	地震発生機構論B	川崎一朗
理学研究科	14-16	地殻変動論A	川崎一朗
理学研究科	14-16	地殻変動論B	川崎一朗
理学研究科	14-16	地殻変動論B	川崎一朗
理学研究科	14-16	地震発生機構論ゼミナール	川崎一朗
理学研究科	14-16	地殻変動論ゼミナール	川崎一朗
情報学研究科	14-16	危機管理特論	河田恵昭
情報学研究科	14-15	水工学セミナーC	河田恵昭
情報学研究科	14-16	防災情報学セミナー2	河田恵昭
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅡ	神田 径
理学研究科	14-16	応用地球電磁気学ゼミナール	神田 径
工学研究科	14-16	都市水文システム	城戸由能
工学研究科	14-15	都市社会計画総合セミナー	城戸由能
工学研究科	14-15	ライフライン工学総合セミナー	城戸由能
工学研究科	14-15	社会基盤マネジメント総合セミナー	城戸由能
工学研究科	14-15	都市社会工学特論	城戸由能
工学研究科	14	土木工学セミナーC	児島利治
工学研究科	15-16	都市環境工学演習A	児島利治
工学研究科	15-16	都市環境工学演習B	児島利治
工学研究科	14	水資源システム論	小尻利治
工学研究科	15-16	流域計画・管理論	小尻利治
工学研究科	15-16	都市社会情報論	小尻利治
工学研究科	15-16	都市社会工学セミナー	小尻利治
工学研究科	15-16	社会基盤マネジメント総合セミナー	小尻利治
工学研究科	15-16	都市社会工学総合セミナーA	小尻利治
工学研究科	15-16	都市社会工学総合セミナーB	小尻利治
工学研究科	14	土木システム工学セミナーA	小尻利治
工学研究科	14	土木システム工学セミナーB	小尻利治
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	許斐 直
理学研究科	14-16	水圏地球物理学ゼミナールⅢ	齊藤隆志
理学研究科	14-16	環境地球科学Ⅰ	佐々恭二
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅠ	佐々恭二
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	佐々恭二
地球環境学堂	14-16	環境地球科学Ⅰ	佐々恭二
工学研究科	14	構造動力学	佐藤忠信
工学研究科	14-16	ライフライン防災工学	佐藤忠信
工学研究科	15-16	都市社会情報論	佐藤忠信
工学研究科	15-16	サイスミック・シミュレーション演習	澤田純男
工学研究科	15-16	キャップストーンプロジェクト演習	澤田純男
工学研究科	14	構造工学セミナーA	澤田純男
工学研究科	14	ライフライン防災工学	澤田純男
工学研究科	14-16	防災水工学	澤田豊明

理学研究科	14-16	地殻変動論ゼミナール	重富國宏
建築学専攻	14	構造安全制御	吹田啓一郎
建築学専攻	14-16	臨界挙動解析学	吹田啓一郎
理学研究科	14-16	環境地球科学Ⅰ	末峯 章
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅠ	末峯 章
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	末峯 章
理学研究科	14-16	水圏地球物理学Ⅱ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	環境地球科学Ⅲ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	水圏地球物理学ゼミナールⅢ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅢ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	水圏地球物理学Ⅱ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	環境地球科学Ⅲ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	水圏地球物理学ゼミナールⅢ	諏訪 浩
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅢ	諏訪 浩
工学研究科	14-16	水際地盤学	関口秀雄
理学研究科	14-16	環境地球科学ⅠB	関口秀雄
工学研究科	14	流砂水理学	高橋 保
工学研究科	14	水工学セミナーB	高橋 保
工学研究科	14-15	海岸工学	高山知司
工学研究科	14-15	水防災工学	高山知司
工学研究科	14	土木工学総合セミナーC	高山知司
工学研究科	16	沿岸域防災工学	高山知司
工学研究科	16	都市環境工学セミナーA	高山知司
工学研究科	14	土木工学セミナーC	寶 馨
工学研究科	15-16	水防災情報工学	寶 馨
工学研究科	15-16	都市環境工学演習A	寶 馨
工学研究科	15-16	都市環境工学演習B	寶 馨
工学研究科	15-16	都市環境工学特別セミナーA	寶 馨
工学研究科	15-16	都市環境工学論	寶 馨
理学研究科	14-15	環境地球科学Ⅰ	竹内篤雄
理学研究科	14-15	環境地球科学ゼミナールⅠ	竹内篤雄
理学研究科	14-15	地球惑星科学特殊研究	竹内篤雄
理学研究科	14	地震計測法	竹内文朗
理学研究科	14-16	地震計測法ゼミナール	竹内文朗
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	竹内文朗
理学研究科	15-16	地震計測法A	竹内文朗
理学研究科	15-16	地震計測法B	竹内文朗
工学研究科	14-16	水文循環工学	竹門康弘
工学研究科	14-16	都市環境工学特別セミナーA	竹門康弘
工学研究科	14	水文学	立川康人
工学研究科	14	土木工学総合セミナーC	立川康人
工学研究科	15-16	水防災情報工学	立川康人
工学研究科	15-16	都市環境工学演習A	立川康人
工学研究科	15-16	都市環境工学演習B	立川康人
工学研究科	15-16	都市環境工学特別セミナーA	立川康人
工学研究科	14-16	鉄筋コンクリート構造物の性能評価型設計法	田中仁史

工学研究科	14-16	コンクリート系構造特論	田中仁史
工学研究科	16	鉄筋コンクリート構造物の性能評価 型設計法	田村修次
理学研究科	16	環境地球科学ゼミナールII	為栗 健
理学研究科	14-16	環境地球科学III	千木良雅弘
理学研究科	14-16	環境地圏科学ゼミナールIII	千木良雅弘
理学研究科	14-16	災害地質学	千木良雅弘
理学研究科	14-16	地震情報処理論ゼミナール	寺石眞弘
工学研究科	14	水工学セミナーA	戸田圭一
工学研究科	15-16	都市水害論	戸田圭一
工学研究科	15-16	キャップストーンプロジェクト	戸田圭一
工学研究科	16	都市社会情報論	戸田圭一
工学研究科	16	都市社会工学総合セミナーA	戸田圭一
工学研究科	16	都市社会工学総合セミナーB	戸田圭一
工学研究科	14	水資源システム論	友杉邦雄
工学研究科	14	土木システム工学セミナーA	友杉邦雄
工学研究科	14	土木システム工学セミナーB	友杉邦雄
工学研究科	14	土木工学総合セミナーC	友杉邦雄
工学研究科	15-16	流域計画・管理論	友杉邦雄
工学研究科	15-16	都市社会情報論	友杉邦雄
工学研究科	15-16	自主企画プロジェクト	友杉邦雄
工学研究科	15-16	キャップストーンプロジェクト	友杉邦雄
工学研究科	15-16	都市社会工学セミナー	友杉邦雄
工学研究科	15-16	都市社会工学総合セミナーA	友杉邦雄
工学研究科	15-16	都市社会工学総合セミナーB	友杉邦雄
工学研究科	15-16	社会基盤マネジメント総合セミナー	友杉邦雄
工学研究科	14-16	流砂力学	中川 一
工学研究科	14-16	防災水工学	中川 一
工学研究科	14-16	社会基盤工学総合セミナーBI, II	中川 一
工学研究科	14-16	水文循環工学	中北英一
工学研究科	14-16	地球環境リモートセンシング	中北英一
工学研究科	14	環境地球工学演習A	中北英一
工学研究科	14	環境地球工学セミナー	中北英一
工学研究科	14	環境地球工学特別演習	中北英一
工学研究科	14	環境地球工学特別セミナー	中北英一
工学研究科	15	環境情報論	中北英一
工学研究科	15	都市環境工学論	中北英一
工学研究科	15	都市環境工学セミナーA	中北英一
工学研究科	15	都市環境工学セミナーB	中北英一
工学研究科	15	都市環境工学演習A	中北英一
工学研究科	15	都市環境工学演習B	中北英一
工学研究科	15	都市環境工学特別セミナーA	中北英一
工学研究科	16	都市水文システム	中北英一
工学研究科	16	都市社会情報論	中北英一
工学研究科	16	自主企画プロジェクト	中北英一

工学研究科	16	キャップストーンプロジェクト	中北英一
工学研究科	16	都市社会工学セミナー	中北英一
工学研究科	16	社会基盤マネジメント総合セミナー	中北英一
工学研究科	16	都市社会工学総合セミナーA	中北英一
工学研究科	16	都市社会工学総合セミナーB	中北英一
工学研究科	14-16	構造安全制御	中島正愛
工学研究科	14-16	建築構造学セミナーI	中島正愛
工学研究科	14-16	建築構造学セミナーII	中島正愛
工学研究科	15-16	先端建築学特論II	中島正愛
工学研究科	14-15	建築学総論演習E	中島正愛
工学研究科	14-15	建築学特別演習I	中島正愛
工学研究科	14-15	建築学特別演習II	中島正愛
工学研究科	14	地球環境工学 複合構造設計論	中島正愛
理学研究科	14-16	地震活動論	西上欽也
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	西上欽也
理学研究科	14-16	地震テクトニクス	橋本 学
理学研究科	14-16	地震テクトニクスゼミナール	橋本 学
理学研究科	14-16	地殻変動論	橋本 学
工学研究科	14-16	「建築振動論」	林 康裕
工学研究科	14-16	「都市防災工学」	林 康裕
情報学研究科	14-16	防災情報特論	林 春男
情報学研究科	14-16	危機管理特論	林 春男
工学研究科	14	水工学セミナーC	林 春男
情報学研究科	15-16	情報システム分析論	林 春男
理学研究科	14-16	大気圏物理学ⅢA	林 泰一
理学研究科	14-16	大気圏物理学ⅢB	林 泰一
理学研究科	14-16	応用気象学ⅡA	林 泰一
理学研究科	14-16	応用気象学ⅡB	林 泰一
理学研究科	14-16	応用気象学ゼミナール	林 泰一
理学研究科	14-16	水圏地球物理学ゼミナールⅡ	林 泰一
理学研究科	14-16	活地球圏科学実習	林 泰一
理学研究科	14-16	環境地球科学Ⅰ	福岡 浩
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナールⅠ	福岡 浩
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	福岡 浩
地球環境学堂	14-16	環境地球科学Ⅰ	福岡 浩
工学研究科	14	流砂水理学	藤田正治
工学研究科	15-16	水工学セミナー	藤田正治
工学研究科	15-16	流砂力学	藤田正治
工学研究科	15-16	社会基盤工学演習A	藤田正治
工学研究科	15-16	社会基盤工学演習B	藤田正治
理学研究科	14-15	環境地球科学Ⅰ	古澤 保
理学研究科	14-15	地殻変動論ゼミナール	古澤 保
理学研究科	14-16	応用気象学ゼミナールⅡ	堀口光章
工学研究科	16	キャップストーンプロジェクト演習	本田利器

工学研究科	14-15	水防災工学	間瀬 肇
工学研究科	16	沿岸防災工学	間瀬 肇
理学研究科	14-16	応用地震学B	松波孝治
理学研究科	14-16	応用地震学ゼミナール	松波孝治
理学研究科	14-16	地震予知情報論A	松村一男
理学研究科	14-16	地震予知情報論B	松村一男
理学研究科	14-16	地震情報処理論ゼミナール	松村一男
工学研究科	14-16	風環境工学	丸山 敬
工学研究科	14-16	特別研究	丸山 敬
理学研究科	14-16	応用気象学 I A	向川 均
理学研究科	14-16	応用気象学 I B	向川 均
理学研究科	14-16	応用気象ゼミナール I	向川 均
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	向川 均
工学研究科	14-16	地盤工学セミナーB	三村 衛
工学研究科	14-16	水際地盤学	三村 衛
理学研究科	14-16	地震情報処理論ゼミナール	森井 互
工学研究科	16	流砂力学	山下隆男
工学研究科	14-16	防災水工学	山下隆男
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナール II	山本圭吾
理学研究科	14-16	環境地球科学ゼミナール II	山本圭吾
理学研究科	14-15	水圏地球物理学ゼミナール II	吉岡 洋
理学研究科	14-16	応用地球電磁気学ゼミナール	吉村令慧
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	吉村令慧
理学研究科	14-16	応用地球電磁気学ゼミナール	吉村令慧
理学研究科	14	地震活動論	渡辺邦彦
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	渡辺邦彦
理学研究科	14-16	地球惑星科学特殊研究	渡辺邦彦
理学研究科	15-16	地震活動論A	渡辺邦彦
理学研究科	15-16	地震活動論B	渡辺邦彦
理学研究科	14-16	固体地球物理学 II A	MORI, James Jiro
理学研究科	16	活地球固体圏特論A	MORI, James Jiro
理学研究科	14-16	地震活動論ゼミナール	MORI, James Jiro
理学研究科	15-16	水圏地球物理学 II A	Sidle
理学研究科	15-16	水圏地球物理学 II B	Sidle
理学研究科	15-16	環境地球科学 III A	Sidle
理学研究科	15-16	環境地球科学 III B	Sidle
地球環境学舎	16	地球規模流域プロセスと流域管理	Sidle

表 5.2.2 他大学大学院での担当講義課目一覧

大学名	研究科目名	年度	科目名	教官名
岡山大学	自然科学研究科	14	地球科学特別講義Ⅳ	植田洋匡
金沢大学	自然科学研究科	14-15	地盤基礎力学 (分担)	汪 発武
東京電機大学	理工学研究科	14	流体力学特論	河井宏允
東京電機大学	理工学研究科	15	耐風工学特論	河井宏允
東京電機大学	理工学研究科	16	流体力学特論	河井宏允
京都府立大学	農学研究科	15	砂防学特論 2	佐々恭二
富山大学	理学研究科	14-15	地球進化学特論	諏訪 浩
名古屋大学	工学研究科	14	地圏環境総合プロジェクト	関口秀雄
愛媛大学	理学研究科	15	進化・生態学特別講義	竹門康弘
新潟大学	自然科学研究科	14	環境管理科学特別講義Ⅳ	千木良雅弘
千葉大学	自然科学研究科	15	環境地理学特論	千木良雅弘
神戸大学	自然科学研究科	16	GPS・宇宙技術が拓いた地殻変動・テクトニクス研究	橋本 学
滋賀県立大学	環境科学研究科	14-16	地盤振動特論	松波孝治
北海道大学	大学院工学研究科	15	特別講義 (洪積粘土地盤の長期沈下の数値解析によるアプローチ-大阪港と関西国際空港基礎地盤を例として-)	三村 衛
北海道大学	地球環境科学研究科	14	気候変動特論Ⅰ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学演習Ⅰ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学演習Ⅱ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学演習Ⅲ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学特別研究Ⅰ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学論文購読Ⅰ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学特別研究Ⅱ	向川 均
北海道大学	地球環境科学研究科	14	大気海洋圏環境科学論文購読Ⅱ	向川 均
筑波大学	生命環境科学研究科	16	Preparing and delivering effective environmental geoscience presentations for different audiences	Sidle
名古屋工業大学	工学研究科	16	「大学院特別講義」	林 康裕

表 5.2.3 大学院在籍者数(博士課程)

部門・センター名	分野・領域名	14年度				15年度				16年度			
		社会人学生	外国人	左記以外	全体	社会人学生	外国人	左記以外	全体	社会人学生	外国人	左記以外	全体
総合防災研究部門	災害リスクマネジメント			1	1			1	1		3	1	4
	防災社会構造											1	1
	都市空間安全制御			2	2	1	3	4		2	5	7	
	自然・社会環境防災			2	2			1	1	1	1	2	
地震災害研究部門	強震動地震学		3	1	4	2		2				1	1
	耐震基礎		2	2	4	2	2	4		2	1	3	
	構造物震害			1	1		1	1		1		1	
	耐震機構		2	1	3	2	1	3		2	1	3	
地盤災害研究部門	地盤防災解析		1		1	1	1	2					
	山地災害環境											1	1
	地すべりダイナミクス		3		3								
	傾斜地保全			1	1			1	1			1	1
水災害研究部門	土砂流出災害												
	洪水災害	1	3		4	1	5	1	7	2	4	1	7
	都市耐水												
	海岸・海域災害	2	1	0	3	1	1	1	3		2	1	3
大気災害研究部門	災害気候			3	3			1	1				
	暴風雨災害			4	4			4	4			3	3
	耐風構造			1	1			1	1			1	1
災害実験観測センター	災害水象観測実験					1		1		2		2	
	土砂環境観測実験		1	1	2	2		2		4		4	
	気象海象観測実験		3	2	5	2	2	4		1	1	2	
地震予知研究センター	地震テクニクス			3	3			2	2			2	2
	地震発生機構			2	2			1	1		1	1	2
	地殻変動												
	地震活動			6	6			5	5		1	4	5
	地震予知計測			4	4			4	4			3	3
	地震予知情報		1	1	2		1	1	2			1	1
	総合処理解析 リアルタイム地殻活動解析												
火山活動研究センター	火山噴火予知		1		1	2		2		2		2	
水資源研究センター	地球規模水文循環			2	2			2	2			3	3
	都市・地域水文循環			1	1			1	1				
	地域水利用システム		3		3	3		3		4		4	
巨大災害研究センター	巨大災害過程		1	2	3			4	4			3	3
	災害情報システム			3	3			1	1				
	被害抑止システム			1	1			2	2			3	3
斜面災害研究センター	地すべりダイナミクス					3		3		2		2	
	地すべり計測												
合 計		3	25	47	75	3	28	43	74	2	34	40	76

表 5.2.4 大学院在籍者数(修士課程)

部門・センター名	分野・領域名	14年度				15年度				16年度			
		社会人学生	外国人	左記以外	全体	社会人学生	外国人	左記以外	全体	社会人学生	外国人	左記以外	全体
総合防災研究部門	災害リスクマネジメント		1	4	5		1	3	4			2	2
	防災社会構造											3	3
	都市空間安全制御			4	4			4	4			4	4
	自然・社会環境防災			3	3							1	1
地震災害研究部門	強震動地震学			2	2			2	2			1	1
	耐震基礎			6	6			6	6		1	5	6
	構造物震害		1		1		1		1			1	1
	耐震機構			5	5			5	5			5	5
地盤災害研究部門	地盤防災解析											1	1
	山地災害環境			5	5			4	4			6	6
	地すべりダイナミクス		3	1	4								
	傾斜地保全			1	1							3	3
水災害研究部門	土砂流出災害			1	1			3	3			4	4
	洪水災害		1	4	5			2	2			3	3
	都市耐水			5	5			3	3			2	2
	海岸・海域災害			6	6			5	5			5	5
大気災害研究部門	災害気候											3	3
	暴風雨災害			4	4			5	5			5	5
	耐風構造			1	1			2	2			4	4
災害実験観測センター	災害水象観測実験		1		1		1	2	3			2	2
	土砂環境観測実験			1	1			2	2		1	3	4
	気象海象観測実験			3	3			4	4			2	2
地震予知研究センター	地震テクトニクス											3	3
	地震発生機構			2	2			3	3			5	5
	地殻変動			1	1							1	1
	地震活動		1	1	2		1	1	2			3	3
	地震予知計測			2	2			3	3			1	1
	地震予知情報			2	2			1	1				
	総合処理解析												
リアルタイム地殻活動解析											1	1	
火山活動研究センター	火山噴火予知		2	1	3			1	1		1	1	
水資源研究センター	地球規模水文循環			7	7			9	9			7	7
	都市・地域水文循環			1	1			1	1			1	1
	地域水利用システム		1	3	4			3	3			5	5
巨大災害研究センター	巨大災害過程		2	7	9			6	6			6	6
	災害情報システム			5	5			4	4			2	2
	被害抑止システム			2	2			1	1			1	1
斜面災害研究センター	地すべりダイナミクス				0		2	2	4			2	2
	地すべり計測												
合	計		13	90	103		6	87	93		3	103	106

表 5.2.5 学位論文

年度	氏名	研究科名	論文題目	主査
14	安田誠宏	工学研究科	護岸の被災特性と洗掘機構に関する研究	高山知司
14	朴 容佑	工学研究科	Observation of phytoplankton multiplication precesses and real-time prediction of its blooming in Tanabe Bay (田辺湾における植物プランクトン増殖過程の観測と赤潮発生のリアルタイム予測に関する研究)	高山知司
14	平山克也	工学研究科	非線形不規則波を用いた数値計算と模型実験の港湾設計への活用に関する研究	高山知司
14	伊藤武男	理学研究科	Spatio-temporal distribution of Interplate coupling in southwest Japan	橋本 学
14	志藤あずさ	理学研究科	Origin of Seismic Heterogeneity in the Upper Mantle beneath the Northern Philippine Sea	James Jiro Mori
14	原田昌武	理学研究科	A Study on Temporal and Spatial Variations of Crustal Strains Observed with Extensometers in Tectonically Active Regions	古沢 保
14	水野高志	理学研究科	Deep Sturcture of Activie Faults Estimated from Subsurface Observation of Fault-Zone Tyrapped Waves - the Nojima and Mozumi-Sukenobu faults, Japan -	西上欽也
14	山下 太	理学研究科	In situ Earth Resistivity Monitoring as a Probe for Stress Changes in the Rocks	柳谷 俊
14	宮本順司	工学研究科	The Dynamics of Liquefied Sand under Wave Loading with Application to Nearshore Engineering	関口秀雄
14	高島正典	情報学研究科	DMSP夜間可視画像による地震被害ポテンシャルの推定と地震被害想定への応用	林 春男
14	筆保弘徳	理学研究科	Studies on the Meso- β -scale pressure dip within the tropical cyclone	林 泰一
14	三宅弘恵	理学研究科	Frequency-Dependent Source Heterogeneities for Broadband Ground Motion Simulation (広帯域強震動シミュレーションを旨とした震源の周波数依存不均質特性の解明)	入倉孝次郎
14	章 文波	理学研究科	Study on Dynamic Rupture Process and Near Source Strong Motion Simulation -Case of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, Earthquake- (断層の動的破壊過程と震源近傍域の強震動シミュレーションに関する研究)	入倉孝次郎
14	一井康二	工学研究科	Application of Performance-Based Seismic Design Concept for Caisson-Type Quay Walls (ケーソン式係船岸への性能型耐震設計論の適用)	佐藤忠信
14	劉 大偉	工学研究科	大変形繰返し荷重下における鋼構造部材の塑性変形能力と完全破壊特性	中島正愛
14	清水秀丸	工学研究科	在来軸組構法木造住宅の変形性能を考慮した耐震性能評価に関する研究	鈴木祥之
14	神谷大介	工学研究科	都市域における環境創成と震災リスクの軽減に関するシステム論的研究	荻原良巳
14	程 晓陶	工学研究科	Urban flood prediction and its risk analysis in the coastal area in China	井上和也
14	Vladimir GREIF	理学研究科	Study on the effects of various boundary conditions on the failure mechanism in natural rock slopes	佐々恭二
15	殿最浩司	工学研究科	海岸・港湾護岸の機能設計法に関する研究	高山知司
15	相澤広記	理学研究科	論文題目：自然電位とMT法から求めた富士山地下の構造とそれが山体下の流体に対して持つ意味 (Structure beneath Mt. Fuji imaged by Electric Self-potential and Magnetotellurics and Its Implications for Fluids in	大志万直人
15	西村 宗	理学研究科	GPS速度場から得られる西南日本弧と琉球弧の運動学的テクトニクス (Kinematic Features of Tectonics of Southwest Japan and the Ryukyu Arcs Revealed from the GPS Derived Velocity Field)	橋本 学
15	藤原 了	理学研究科	Thermal state beneath the Japanese Islands and its implication to tectonics of subduction zone	橋本 学
15	ENESCU Bogdan	理学研究科	日本およびルーマニアにおける地震系列の解析による地震活動の時空間変化パターンとその地殻構造および地震の物理過程との関連 (Temporal and Spatial Variation Patterns of Seismicity in Relation to the Crustal Structure and Earthquake Physics, from the Analysis of several Seismic Sequences in Japan and Romania)	伊藤 潔
15	小堤 治	工学研究科	液化化地盤上の地盤・構造物系の地震被害推定に関する数値解析法の研究	井合 進
15	吉野 純	理学研究科	中緯度帯における台風の温帯低気圧化過程とそのメソスケール構造に関する数値的研究	石川裕彦
15	穂積 祐	理学研究科	東アジアにおける小低気圧の発生におよぼすチベット高原の影響	植田洋匡
15	永井晴康	理学研究科	Development of a New Atmosphere-Soil-Vegetation Model to Study Heat, Water, and CO2 Exchanges between the Atmosphere and Land-surface	植田洋匡

表 5.2.5 学位論文 (つづき)

15	永井晴康	理学研究科	Development of a New Atmosphere-Soil-Vegetation Model to Study Heat, Water, and CO2 Exchanges between the Atmosphere and Land-surface	植田洋匡
15	東 博紀	工学研究科	植物の成長と水文素過程に関する研究	岡 太郎
15	朴 珍赫	工学研究科	GISベースの流域水循環モデルを用いた比較水文学の提案	小尻利治
15	久保田拓志	理学研究科	熱帯対流圏温度場の季節規模持続性に関する研究	岩嶋樹也
15	Kimaro, T. A.	工学研究科	Physically based distributed modeling for hydrological impact assessment of catchment environmental change	宝 馨
15	Birgoren Gulum	理学研究科	Strong motion simulation of the 1999 earthquakes in western Turkey: Stochastic Green's function technique with characterized source model and phase dependent site response (1999年トルコ西部に起こった地震の強震動シミュレーション: 特性化震源モデルと位相依存サイト応答を考慮した統計的グリーン関数法)	入倉孝次郎
15	Moya Cesar	理学研究科	Two alternative inversion techniques for the determination of seismic site response and propagation-path velocity structure: spectral inversion with reference events and neural networks (地震動のサイト特性と伝播経路の地下構造を推定するための地震記録を用いた2つのインバージョン手法の開発: スペクトル・インバージョン法とニューラルネットワーク)	入倉孝次郎
15	香川敬生	理学研究科	Study on surface and buried earthquake source modeling and 3-D velocity structure estimation for high-precision evaluation of strong ground motion (高精度強震動予測のための地表断層と潜在断層地震の震源および3次元速度構造のモデル化に関する研究)	入倉孝次郎
15	芝 良昭	理学研究科	Study on rupture process by waveform inversion using simulated annealing and simulation of broadband ground motions (焼きなまし法を用いた波形インバージョンによる震源過程の解明と広帯域強震動シミュレーションに関する研究)	入倉孝次郎
15	三輪 滋	工学研究科	液状化地盤における杭基礎構造物系の耐震解析法	佐藤忠信
15	北村幸嗣	工学研究科	シェル構造物の境界条件不連続点近傍における漸近解析解と応力集中の実用解析法	田中仁史 (副査)
15	西岡 勉	工学研究科	地盤と構造物間のひずみ伝達特性に着目した地中構造物の耐震計算法に関する研究	佐藤忠信
15	唐 小微	工学研究科	Nonlinear Numerical Methods to Analyze Ground Flow and Soil-Pile Interaction in Liquefiable Soil (液状化地盤の流動と杭-地盤の相互作用を解析するための非線形数値解析法)	佐藤忠信
15	柄谷友香	工学研究科	巨大災害の発生に伴う被害過程の定量化に関する研究	岡田憲夫
15	Aurelian C. TRANDAFIR	理学研究科	Dynamic displacement analysis of earthquake-induced catastrophic landslides in saturated cohesionless soils	佐々恭二
15	Muhammad WAFID Agung	理学研究科	An experimental study on the evolution of shear zone on sandy soils by means of ring shear apparatus	佐々恭二
16	Pan Peng	工学研究科	Safety and Functionality of Base-Isolated Building Structures Subjected to Vertical Ground Motions	中島正愛
16	金 泰民	工学研究科	New estimation of caisson sliding distance for improvement of breakwater reliability design	高山知司
16	板場智史	理学研究科	活断層における地震活動度の定量的評価手法の開発と地震活動サイクル (Development of the Quantitative Evaluation Method of Seismic Activity around Active Faults, and Seismicity Cycle)	渡辺邦彦
16	大久保綾子	理学研究科	火山地域における地磁気の空間変化および時間変化に関する研究 (Studies on Geomagnetic Spatial and Temporal Variations in Volcanic Area)	大志万直人 (副査)
16	加納靖之	理学研究科	ポアホール井戸の大気圧・地球潮汐・地震波に対する応答-間隙弾性理論に準拠した解析-	柳谷 俊
16	佐藤一敏	理学研究科	キネマティックGPS測位による時間的に高分解能な異常地殻変動検出法の開発 (Development of a monitoring technique of anomalous crustal deformations with temporally high resolution by the application of kinematic GPS)	橋本 学
16	佐藤和彦	理学研究科	地震の初期課程と複雑さの地震規模依存性 (Scale-dependence of Earthquake Initiation and Rupture Complexity)	Mori, James Jiro
16	山田卓司	理学研究科	微小地震の破壊伝播速度と見かけ応力 (Rupture Speed and Apparent Stress of Small Earthquakes)	Mori, James Jiro
16	Hayoung Kim	工学研究科	Analysis of the Dynamic Behavior of Fluid-Granular Soil-Structure Systems in Waterfront Areas of High Seismicity	関口秀雄

表 5.2.5 学位論文 (つづき)

16	張 祐榮	工学研究科	Development of Compression Modeling of Quasi-overconsolidated Pleistocene Clays and Application to Prediction of Long-term Settlement of the Reclaimed Foundations in Osaka Bay	関口秀雄
16	奥 勇一郎	理学研究科	静止軌道衛星によるリモートセンシングを用いたチベット高原における地表面熱収支に関する観測的研究	石川裕彦
16	梶野瑞王	理学研究科	火山性硫酸エアロゾル増加に伴う大気質変化と環境酸性化 ー東アジアにおける三宅島火山噴火の影響ー	植田洋匡
16	田村圭子	情報学研究科	Participatory Strategic Planning as a Basis for Holistic Disaster Reduction-“Marikina Safety Program”, Philippine- (総合防災の取り組みのための参画型防災戦略計画手法の開発ーフィリピン国マリキナ市を事例とした地震防災戦略計画策定ー)	林 春男
16	Paulo Chaves	工学研究科	Stochastic Reservoir Operation For Water Quantity and Quality Using Artificial Intelligence Technologies	小尻利治
16	Amin Nawahda	工学研究科	3-dimensional river basin simulation with distributed runoff model for water quantity and quality	小尻利治
16	甲山 治	工学研究科	人為的な影響の大きい中国淮河流域における高精度水・熱フラックス推定法の開発	池淵周一
16	西岡昌秋	工学研究科	水文気象の不確定性と非定常性を考慮した洪水防御計画に関する研究	宝 馨
16	Lariyah Mohd. Sidek	工学研究科	BIO-ECOLOGICAL DRAINAGE SYSTEMS (BIOECODS) FOR EFFECTIVE STORMWATER CONTROL IN THE TROPICS	宝 馨
16	国富将嗣	工学研究科	高潮と高波の同時生起確率特性に関する研究	高山知司
16	Kyeong Kim	工学研究科	Coastal ocean model with consideration of meteorological-oceanographic mesoscale interaction	高山知司
16	副田悦生	工学研究科	アレー観測による兵庫県南部地震時の大阪平野地震動特性研究	佐藤忠信
16	國近光生	工学研究科	大深度分割式立杭の耐震設計法の開発に関する基礎的研究	佐藤忠信
16	鄭 明辰	工学研究科	Damage Detection and Assessment of Structural Systems in Time and Frequency Domains (時間と周波数領域における構造システムの損傷診断と評価)	佐藤忠信
16	吉田郁政	工学研究科	モンテカルロ手法の工学問題への応用に関する研究	佐藤忠信
16	梶谷義雄	工学研究科	都市の人間活動分布の時空間解析による地震被害ポテンシャルの計量化に関する研究	岡田憲夫
16	森井雄史	工学研究科	木造建物の被害経験に基づき耐震性能を考慮した地震時損傷度予測手法に関する研究	鈴木祥之
16	坂本麻衣子	工学研究科	水資源開発における社会的コンフリクトマネジメントに関する研究	荻原良巳
16	坪野考樹	工学研究科	水平密度噴流の数値解析法とその温排水予測への応用に関する研究	井上和也

表 5.2.6 修士課程修了者数

部門・センター名	分野・領域名	14年度	15年度	16年度
総合防災研究部門	災害リスクマネジメント	2	1	2
	防災社会構造			
	都市空間安全制御	4	4	4
	自然・社会環境防災	3		
地震災害研究部門	強震動地震学	1	1	1
	耐震基礎	2	3	3
	構造物震害		1	
	耐震機構	1	3	2
地盤災害研究部門	地盤防災解析			
	山地災害環境	4	1	3
	地すべりダイナミクス	1		
	傾斜地保全	1		
水災害研究部門	土砂流出災害	1	3	4
	洪水災害	4	1	
	都市耐水	3	2	1
	海岸・海域災害	3	2	3
大気災害研究部門	災害気候	1		
	暴風雨災害	2	2	2
	耐風構造	1		2
災害実験観測センター	災害水象観測実験		1	2
	土砂環境観測実験		1	
	気象海象観測実験	1	2	2
地震予知研究センター	地震テクトニクス			
	地震発生機構	1	1	2
	地殻変動	1		
	地震活動	1	1	1
	地震予知計測		2	1
	地震予知情報	1	1	
	総合処理解析			
リアルタイム地殻活動解析				
火山活動研究センター	火山噴火予知		1	2
水資源研究センター	地球規模水文循環	2	2	3
	都市・地域水文循環	1		1
	地域水利用システム	2	2	
巨大災害研究センター	巨大災害過程	4		2
	災害情報システム	2	2	2
	被害抑止システム			
斜面災害研究センター	地すべりダイナミクス		3	1
	地すべり計測			
合	計	50	43	46

表 5.2.7 過去 3 年間就職先

1. 大学・高専等学校	(18名)
2. 国家・地方公務員	(14名)
3. 独立行政法人・事業団	(12名)
4. 電気・ガス・水道等公共事業	(6名)
5. 建設・鉄鋼等製造業	(32名)
6. コンサルタント・シンクタンク	(20名)
7. 金融・保険・商社・不動産	(7名)
8. 国外会社・学校	(12名)
9. その他	(33名)

5.3 学部教育

防災研究所の教員は、総合人間学部、理学部、工学部および全学共通開講科目の一部を担当している。平成 14～16 年度の担当講義科目の内訳は表 5.3.1 および表 5.3.2 のとおりである。

防災研究所教員が自然災害科学の専門家であり、現場を知ることが重要な担当科目が多いことから、実験、実習など経験豊富な教員が提供している。全体としては理学、工学部関係の科目が圧倒的に多いが、総合科学の防災学として、人文・社会科学系学部の学生にも自然災害の基礎知識を提供している。

例えば、全学共通科目として、情報と社会、自然災害科学 I, II, 環境地圏科学ゼミナール I, II などの科目を提供している。これらの科目は防災研究所の研究内容を紹介する上でも、貴重な機会であると考えられる。

平成 13 年度からは全学共通の少人数ゼミ

形式をとるポケットゼミが開講され、防災研究所として、「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」、「自然環境観測実験体験ゼミ」、「流域生態環境ゼミナール」、などの講義を提供している。今後も魅力的な講義を継続していくことが望まれる。

防災研究所の教員が他大学等で平成 14～16 年度非常勤講師として講義を担当した講義は表 5.3.3 の通りである。

卒業論文の研究指導に関して、防災研究所の教員に指導を受け、学士の学位を授与された件数を表 5.3.4 に示す。

表 5.3.1 全学共通科目一覧

年度	科目名	教官名
14-15	自然災害科学I	井合 進
15-16	自然災害科学I	石川裕彦
14-15	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	入倉孝次郎
14	自然災害科学 I	岩嶋樹也
16	環境学A	岩嶋樹也
16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	岩田知孝
16	環境地圏科学ゼミナール I (補佐)	汪 発武
16	環境地圏科学ゼミナール II (補佐)	汪 発武
16	環境地圏科学ゼミナール I	王 功輝
15	環境地圏科学ゼミナール II (補佐)	王 功輝
16	環境地圏科学ゼミナール II	王 功輝
14-16	地球科学実験A	大見士朗
14-15	ポケットゼミ「流域生態環境ゼミナール」	岡 太郎
14	ポケットゼミ「入門・都市リスクマネジメント」	岡田憲夫
15-16	ポケットゼミ「地域コミュニティ時代の戦略的思考法」	岡田憲夫
16	ポケットゼミ「沿岸海域の環境保全と防災」	加藤 茂
14-16	地球科学実験	釜井俊孝
14-16	ポケットゼミ「自然環境観測実体験ゼミ」	釜井俊孝
14-16	環境地圏科学ゼミナール I	釜井俊孝
14-16	環境地圏科学ゼミナール II	釜井俊孝
14-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	河井宏允
14-16	地球科学実験B	川方裕則
14-15	自然災害科学	川崎一朗
14-16	情報と社会	河田恵昭
14-16	ポケットゼミ「流域生態環境ゼミナール」	城戸由能
14-16	ポケットゼミ「自然環境観測実体験ゼミ」	児島利治
14-16	環境地圏科学ゼミナール I	佐々恭二
14-16	環境地圏科学ゼミナール II	佐々恭二
14	自然災害II	佐藤忠信
14-16	KU I N E P「日本の自然と地理」	佐藤忠信
15-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父」	佐藤忠信
14	ポケットゼミ「新入生向け少人数セミナー」	里深好文
14	ポケットゼミ「自然環境観測実体験ゼミ」	里深好文
14-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	澤田純男
15	地球工学総論	澤田純男
14-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	吹田啓一郎
15-16	ポケットゼミ「自然環境観測実体験ゼミ」	関口秀雄
14-16	環境地圏科学ゼミナール I	関口秀雄
14-16	環境地圏科学ゼミナール II	関口秀雄
14-15	環境地圏科学ゼミナール II	竹内篤雄
14-16	ポケットゼミ「流域生態環境ゼミナール」	竹門康弘
14-16	ポケットゼミ「自然環境観測実体験ゼミ」	立川康人
15-16	自然災害科学2	立川康人
14-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	田中仁史
14-16	環境地圏科学ゼミナール I	千木良雅弘
14-16	日本の自然と地理 (英語講義)	戸田圭一

14-16	ポケットゼミ「自然環境観測実験体験ゼミ」	戸田圭一
15-16	ポケットゼミ「自然環境観測実験体験ゼミ」	飛田哲男
15-16	流域生態環境ゼミナール	友杉邦雄
14-15	自然災害科学Ⅱ	中川 一
14-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	中島正愛
14-16	地震予知ゼミナール	橋本 学
14-16	環境地圏科学ゼミナールⅠ	福岡 浩
14-16	環境地圏科学ゼミナールⅡ	福岡 浩
14-16	ポケット・ゼミ「自然環境観測実験体験ゼミ」	藤田正治
14-16	ポケット・ゼミ「自然環境観測実験体験ゼミ」	堀口光章
15-16	自然災害科学Ⅱ	間瀬 肇
15-16	ポケット・ゼミ「自然環境観測実験体験ゼミ」	間瀬 肇
14-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	松波孝治
15-16	ポケットゼミ「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」	丸山 敬
16	ポケットゼミ「自然環境観測実験体験ゼミ」	安田誠宏
16	ポケットゼミ「沿岸海域の環境保全と防災」	山下隆男
15-16	地球科学実験B	吉村令慧
14	自然災害科学Ⅰ	MORI, James Jiro
15	地震予知ゼミナール	MORI, James Jiro

表 5.3.2 学部担当講義科目一覧

学部名	年度	科目名	教官名
理学部	14-16	地球惑星科学課題演習 D3 地下構造と活構造・地表変動	赤松純平
工学部	14-16	土質力学II及び演習	井合 進
理学部	14-16	火山物理学2	井口正人
工学部	14-16	水文学基礎	池淵周一
工学部	14	河川工学	池淵周一
工学部	15-16	流域生態環境ゼミナール	池淵周一
工学部	14-16	水理実験	石垣泰輔
工学部	14-15	水理学 I および演習	石垣泰輔
理学部	14	地球物理学課題演習D5	石川裕彦
理学部	15-16	地球物理学課題演習D6	石川裕彦
理学部	14-16	火山物理学2	石原和弘
工学部	14	水理学及び演習	井上和也
理学部	14-16	物理課題演習D3	岩田知孝
理学部	14-16	物理課題研究T8	岩田知孝
工学部	14-16	水理学実験	加藤 茂
工学部	14-16	耐風構造	河井宏允
工学部	14-16	構造解析Ⅲ	河井宏允
工学部	14-16	地球防災工学	河田恵昭
工学部	14-15	水理実験	児島利治
工学部	14-16	水資源工学	小尻利治
工学部	15-16	流域生態環境ゼミナール	小尻利治
理学部	14-16	課題研究T8	佐々恭二
工学部	14-16	構造力学II及び演習	佐藤忠信
工学部	14-16	土質力学II及び演習	佐藤忠信
工学部	14	水理実験	里深好文
工学部	14-16	地震・風工学	澤田純男
工学部	14-16	構造力学 I 及び演習	澤田純男
理学部	14-16	課題演習D2	澁谷拓郎
工学部	14-16	構造・材料実験	吹田啓一郎
工学部	14-16	構造設計演習	吹田啓一郎
理学部	14-16	陸水物理学	諏訪 浩
工学部	14-16	土質力学Ⅱ	関口秀雄
工学部	14	河川工学	高橋 保
工学部	14-16	水文学基礎	寶 馨
工学部	14-16	河川工学	竹門康弘
工学部	14	水理実験	立川康人
工学部	14-16	水文学基礎	立川康人
工学部	14-15	応用測量学	立川康人
工学部	16	空間情報学	立川康人
工学部	14-16	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	田中仁史
工学部	14	水理実験	田中賢治
工学部	15-16	水理実験	堤 大三
工学部	14-16	水理学及演習	戸田圭一
工学部	15-16	地球工学総論	戸田圭一

工学部	14-16	土質実験及び演習（原位置調査・試験担当）	飛田哲男
工学部	14-16	水理学 I 及び演習	中川 一
地球工学科	14-15	測量学及び実習	中北英一
地球工学科	14-15	応用測量学	中北英一
地球工学科	14-16	確率・統計解析及び演習	中北英一
地球工学科	14-16	流れ学	中北英一
工学部	14-16	鉄骨構造II	中島正愛
工学部	14-16	特別演習	中島正愛
工学部	14-16	水理実験	馬場康之
工学部	15-16	水理実験	浜口俊雄
工学部	14-16	「耐震構造」	林 康裕
工学部	15-16	地球工学総論(少人数ゼミ)	林 春男
理学部	14-16	課題演習D3	福岡 浩
工学部	14-16	水理実験	藤田正治
工学部	16	水理学 I 及び演習	藤田正治
工学部	14-16	土質実験及び演習	本田利器
工学部	14	水理実験	間瀬 肇
工学部	15-16	地球工学総論（少人数ゼミ）	間瀬 肇
工学部	14-16	台風構造	丸山 敬
工学部	14-16	土質力学 I	三村 衛
工学部	14-16	土質実験	三村 衛
工学部	14-16	水理実験	武藤裕則
工学部	14-16	水理学 I および演習	山下隆男
工学部	14-15	水理実験	吉岡 洋
工学部	14-15	ポケットゼミ「自然環境観測体験ゼミ」	吉岡 洋
理学部	15-16	地震学 II	MORI, James Jiro

表 5.3.3 他大学での学部担当講義科目一覧

大学名	学部名	年度	科目名	教官名
大阪大学	全学共通教育	16	地球科学	赤松純平
和歌山工業高等専門学校		14	水理学 (4年生)	石垣泰輔
大阪大学	共通教育	14	地球科学概論	伊藤 潔
福井大学	教育地域科学部	15	地球科学特講	岩嶋樹也
産業医科大学	産業保健学部	14-15	大気環境学	植田洋匡
高知大学	理学部	15	地盤計測学	大志万直人
金沢大学	工学部	14-16	土質力学第1 (分担)	汪 発武
金沢大学	工学部	14-16	地盤基礎工学 (分担)	汪 発武
金沢大学	工学部	14-15	土質力学2 (分担)	汪 発武
名城大学	理工学部	14-15	情報処理演習	加藤 茂
関西大学	工学部	14-16	地球科学	釜井俊孝
立命館大学	理工学部	16	地球科学Ⅲ	川方裕則
信州大学	理学部	16	地球物理学特論	川崎一朗
関西大学	工学部	14-16	地球防災工学	河田恵昭
鳥取大学	工学部	14-16	廃棄物・環境管理	城戸由能
中部大学	工学部	14-16	河川工学	小尻利治
名古屋大学	工学部	14-16	特別講義	佐藤忠信
大阪大学	全学共通教育機構	14-16	自然災害の科学	諏訪 浩
奈良女子大学	理学部	14-16	地球科学2	諏訪 浩
信州大学	理学部	14	地圏循環論Ⅳ	諏訪 浩
関西大学	工学部	14-15	河川工学	寶 馨
関西大学	工学部	16	流域環境工学	寶 馨
奈良女子大学	理学部	14-15	水圏生物学野外実習	竹門康弘
近畿大学	農学部	14	陸水学	竹門康弘
信州大学	工学部	16	鉄筋コンクリート構造	田村修次
信州大学	工学部	16	設計製図第一	田村修次
信州大学	理学部	14	構造地質学特論	千木良雅弘
鹿児島大学	理学部	14	構造地質学特論	千木良雅弘
静岡大学	理学部	16	災害地質学	千木良雅弘
摂南大学	工学部	14-16	防災工学Ⅱ	友杉邦雄
摂南大学	工学部	16	土木法規	友杉邦雄
立命館大学	理工学部	14-16	基礎演習Ⅰ	中川 一
関西大学	工学部	14-16	応用水理学・土砂水理学	中川 一
京都教育大学	教育学部	15	環境科学Ⅱ	橋本 学
摂南大学	工学部	16	環境工学実験	馬場康之
甲子園大学	人間文化学部	14-15	防災心理学 (集中講義)	林 春男
甲南大学	文学部	14-16	防災心理学 (集中講義)	林 春男
富士常葉大学	環境防災学部	14-16	防災教育 (集中講義)	林 春男
奈良女子大学	生活環境学部	14-15	「建築構造学」	林 康裕
立命館大学	理工学部	14-15	建設工学実験Ⅰ	藤田正治
立命館大学	理工学部	14-15	建設工学実験Ⅱ	藤田正治
大阪教育大学	教育学部	15	地学特論	松波孝治
京都府立大学	人間環境学部	14-16	宇宙と地球の科学Ⅰ	松村一男
京都府立大学	人間環境学部	14-16	宇宙と地球の科学Ⅱ	松村一男

北海道大学	全学共通科目	14	環境と人間：気候変動の科学	向川 均
北海道大学	全学共通科目	14	一般教育演習「海と空の流れの科学」	向川 均
摂南大学	工学部	14-16	水理学および演習	武藤裕則
摂南大学	工学部	14-16	環境工学実験	武藤裕則
名城大学	理工学部	14-16	海域システム学	山下隆男
名城大学	理工学部	15	防災工学	山下隆男
京都産業大学	全学共通教育センター	14-16	沿岸海洋における環境と防災	山下隆男
奈良大学	社会学部	15	応用心理学	矢守克也
奈良教育大学	教育学部	15	社会心理学	矢守克也
愛知県立大学	情報科学部	15	環境シミュレーション	吉岡 洋
立命館大学	経済学部・経営学部・理工学部	14	地球科学(G1, G2)	渡辺邦彦
立命館大学	経済学部・経営学部・理工学部	14	地球科学Ⅲ(TA, TB)	渡辺邦彦
立命館大学	理工学部	15-16	地球科学Ⅲ[TA]	渡辺邦彦
立命館大学	理工学部	15	地球科学Ⅲ[TB]	渡辺邦彦
島根大学	総合理工学部	16	自然災害工学特論 I	渡辺邦彦

表 5.3.4 卒業生数

部門・センター名	分野・領域名	14年度	15年度	16年度
総合防災研究部門	災害リスクマネジメント	2	2	1
	防災社会構造			
	都市空間安全制御	4	4	3
	自然・社会環境防災	2	1	1
地震災害研究部門	強震動地震学	1		1
	耐震基礎	3	2	3
	構造物震害	3	4	3
	耐震機構	5	4	6
地盤災害研究部門	地盤防災解析	1	3	2
	山地災害環境			
	地すべりダイナミクス	1		
	傾斜地保全			
水災害研究部門	土砂流出災害	2	2	3
	洪水災害	2	3	3
	都市耐水	2	1	1
	海岸・海域災害	3	2	4
大気災害研究部門	災害気候			
	暴風雨災害			
	耐風構造	5	3	1
災害実験観測センター	災害水象観測実験	2	3	1
	土砂環境観測実験	1	1	
	気象海象観測実験	2	1	
地震予知研究センター		1		
火山活動研究センター	火山噴火予知	2	3	1
水資源研究センター	地球規模水文循環	3	3	2
	都市・地域水文循環	1	2	4
	地域水利用システム	1	4	2
巨大災害研究センター	巨大災害過程	2	1	3
	災害情報システム			
	被害抑止システム			
斜面災害研究センター	地すべりダイナミクス			
	地すべり計測			
合	計	51	49	45

5.4 社会人教育

防災研究所における社会人教育としては、社会人学生として大学院に入学した学生の研究指導を行う場合と、研究生あるいは研修員等として受け入れる場合がある。

社会人学生とは、大学院博士課程を対象とし、各種教育・研究機関や企業等に在職しているものが、大学院在籍中も引き続きその身分を保有しつつ博士論文の研究指導を受けるものである。社会人学生として防災研究所の教員に研究指導を受けている学生数は表 5.2.3 に示すように、わずかである。

身分を保証されながら研究が継続でき、かつ学位修得の機会が与えられている点で、学生にとっては非常に魅力のある制度と考えられる。防災研究所にとっても、ある程度の実務経験を有する人材に対して、自然災害科学の再教育を施し、より総合的な見識と判断能力を持った防災実務者として送り出すことは、社会の要請に応えることでもあり、その利点は計り知れないので、この制度の宣伝・広報活動が必要と考えられる。この他、大学院入学試験時に社会人別途専攻枠を設けている研究科・専攻もあり、今後同様な制度の拡充・活用が必要である。

一方、研究生および研修員の受け入れは表 5.4.1 に示すように、社会人教育のシステムとして全学的に実施されているものである。平成 14・16 年度の期間の各年度に、防災研究所に研究生および研修員として受け入れた数は、研究生がそれぞれ 7, 8, 10 名、研修員がそれぞれ 3, 5, 2 名となって

いる。平成 14 年度自己点検評価実施時と比べて、研究生および研修員はともに微増である。

但し、研究生、研修員の中には、いわゆるオーバー・ドクターや博士・修士課程退学者も含まれており、制度本来の趣旨に則った活用が十分にされているとはいえない状況もある。

平成 16 年度には独立行政法人化されたが、社会人教育は防災研究所の主要な活動の一つとなるべきものと考えられるので、これに備えた制度の整備、広報活動を引き続き行っていく必要がある。

上記のような、研究所内での社会人教育とそれを支える制度の整備に加えて、一般を対象とした講義・講演等も広義には社会人教育の範疇に分類される。防災研究所主催の一般向け教育活動としては、公開講座や年次学術講演会等があげられるが、これらについての詳細は、6 章「社会貢献」を参照されたい。

地域や学校などを対象とし、小・中・高校などの学習、教員研修もを担当している。平成 14～16 年度において、防災研究所教員は表 5.4.2 のように 22 例行っている。

平成 15 年 1 月からは 21 世紀 COE の拠点形成プログラムに防災研究所のプロジェクトが採用されたことに伴い、京都大学防災研究所フォーラムを京都および東京で定期的で開催し、一般を対象とした講義を所員 1 人当たり年 2 回程度行うことを全所員がノルマとして課されている。

表5.4.1 研究生・受託研究員・研修員の受入数

部門・センター名	分野・領域名	14年度		15年度		16年度	
		研究生	研修員	研究生	研修員	研究生	研修員
総合防災研究部門	災害リスクマネジメント					2	
	防災社会構造						
	都市空間安全制御 自然・社会環境防災	2		1		1	
地震災害研究部門	強震動地震学						
	耐震基礎	1		2			
	構造物震害						
	耐震機構						
地盤災害研究部門	地盤防災解析			1		1	
	山地災害環境		2				
	地すべりダイナミクス	1					
	傾斜地保全						
水災害研究部門	土砂流出災害				1	1	1
	洪水災害	1					
	都市耐水						
	海岸・海域災害	1			1		
大気災害研究部門	災害気候		1		1		1
	暴風雨災害						
	耐風構造						
災害実験観測センター	災害水象観測実験						
	土砂環境観測実験	1			1		
	気象海象観測実験						
地震予知研究センター	地震テクトニクス						
	地震発生機構						
	地殻変動			1			
	地震活動				1		
	地震予知計測						
	地震予知情報						
	リアルタイム地殻変動活動解析						
火山活動研究センター	火山噴火予知			1		1	
水資源研究センター	地球規模水文循環						
	都市・地域水文循環						
	地域水利用システム			1			
巨大災害研究センター	巨大災害過程					2	
	災害情報システム						
	被害抑止システム						
	被害抑止システム			1			
斜面災害研究センター	地すべりダイナミクス					2	
	地すべり計測						
合	計	7	3	8	5	10	2

表 5.4.2 総合学習・教員研修担当一覧（小・中・高校など）

講演者氏名	学校名	年度	講演項目・授業名称等
池淵周一	兵庫県立姫路西高等学校	16	環境と防災
石原和弘	都道府県指定都市教育センター所長協議会地学部会	16	桜島の今昔—火山活動と災害の歴史
片尾 浩	京都府立乙訓高校	15	授業名称等
釜井俊孝	大阪府立三嶋高校	16	古墳が語る災害の歴史
川方裕則	城北埼玉高等学校	15	修学旅行
澤田豊明	岐阜県立吉城高校	14	奥飛騨サイエンスツアー「土砂災害を防ぐ」
澤田豊明	岐阜県上宝村立栞尾小学校	15	「焼岳火山と砂防」
澤田豊明	岐阜県上宝村立本郷小学校	15	「焼岳火山と砂防」
澤田豊明	岐阜県上宝村立栞尾小学校	15	「川と人々の暮らし」
澤田豊明	岐阜県上宝村立栞尾小学校	16	総合学習「自然環境」
澤田豊明	岐阜県上宝村立本郷小学校	16	「焼岳火山と砂防」
立川康人	愛知県立東海南高等学校	15	洪水を予測する
中村佳重郎	大阪府高槻市立第四中学校	14	地震とその原因・総合学習
中村佳重郎	静岡県磐田郡龍山村立第一小学校	16	重力変化と地震・総合学習
橋本 学	兵庫県新宮町立香島小学校	14	防災学習「地震のおはなし」
林 春男	兵庫県舞子高校	14-16	環境防災科専門科目「災害と人間」
林 春男	練馬区立南町小学校	16	「12歳からの被災者学-阪神淡路大震災に学ぶ78の知恵-」
林 春男	兵庫教育大学	16	学校管理職・教育行政職特別研修：「危機管理能力を高めるには」
三村 衛	兵庫県立伊丹西高等学校	16	地盤災害
三村 衛	大阪府立工業高等専門学校	16	地震による地盤災害-地盤で変わる地震の揺れ-
三村 衛	修成建設学校	16	地震による地盤災害-地盤で変わる地震の揺れ-
渡辺邦彦	兵庫県立東播工業高等学校	16	学校設定科目「播磨の地震と耐震」

5.5 外国人教育

防災研究所で受け入れている大学院学生のうち、外国人学生の数は、平成 14~16 年度では、表 5.2.3 および表 5.2.4 に示すとおり、それぞれ 38, 34, 37 人である。前回の調査の平成 12, 13 年度は、それぞれ 18, 25 人であった。

平成 14 年度において、英語を母国語とする外国人教授が 2 名採用されており、外国人のみならず日本人向けの英語による授業担当および指導の機会が増えている。ただし、英語による教育の機会は少ないといわざるを得ないので、改善の努力が必要であろう。

外国人学生の出身国は、表 5.5.1~表 5.5.3 の通りである。世界各地から留学生を受け入れており、国際を冠する防災研究の拠点とした COE の特質を発揮している。特に、インドネシア、韓国、中国といったアジアの国からは毎年複数の留学生を受け入れており、アジアにおける防災技術移転の拠点としての側面を有している。

外国人留学生の受け入れに際しては、依然として指導教員の負担も大きいものがあり、留学生のうち特に私費留学生特有な不安定な身分をサポートするシステムの構築も進めねばならない。

防災研究所の教員が、JICA 研修や海外の大学・研究所等で外国人を対象として行った（国際学会・会議での発表は除く）講演・講義は表 5.5.4 に示すとおり、平成 14~16 年度で 47 件にのぼる。

防災研究所教員が海外の大学において学位論文審査に携わった例は 15 件である。と、前回平成 12 年度自己点検評価の時点の 3 件に比べ格段に増加している。

以上、外国人教育に関しては着実に実績を増しているが、発展途上国のみならずアメリカやヨーロッパの先進諸国においても防災研究所の知名度を高めるとともに、COE プログラムの推進に貢献するためには、量だけでなく質的な向上に向けての努力も怠らないようにしなければならないと考える。なお、表 5.5.5 および表 5.5.6 に、留学生および海外研究者の受け入れ状況を示す。

表 5.5.7 には、海外の大学における学位論文の審査を行った教員や論文内容についての一覧を載せる。

表5.5.1 外国人学生の出身国(大学院生分)

平成14年度

部門・センター名	中国	韓国	インドネシア	タンザニア	コスタリカ	トルコ	スロバキア	ルーマニア	パレスチナ	ブラジル	ネパール	ベトナム	ナイジェリア	ポルトガル	ロシア	バングラデシュ	オーストラリア	合計
・総合防災研究部門												1						1
・地震災害研究部門	5	1			1	1												8
・地盤災害研究部門		1	1				1	1					1	1	1			7
・水災害研究部門		1		1							1							3
・大気災害研究部門																		0
・災害観測実験センター	1	3														1		5
・地震予知研究センター		1						1										2
・火山活動研究センター			3															3
・水資源研究センター		1							1	1							1	4
・巨大災害研究センター		2										1						3
合計	6	10	4	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	36

表5.5.2 外国人学生の出身国(大学院生分)

平成15年度

部門・センター名	中国	韓国	インドネシア	タンザニア	コスタリカ	トルコ	台湾	ルーマニア	パレスチナ	ブラジル	ネパール	ベトナム	ナイジェリア	ポルトガル	ロシア	バングラデシュ	オーストラリア	合計
・総合防災研究部門							1					1						2
・地震災害研究部門	4	1			1	1												7
・地盤災害研究部門		1																1
・水災害研究部門		1		1			1				2							5
・大気災害研究部門																		0
・災害観測実験センター	2	2	1													1		6
・地震予知研究センター		1						1										2
・火山活動研究センター			2															2
・水資源研究センター									1	1							1	3
・巨大災害研究センター																		0
合計	6	6	3	1	1	1	2	1	1	1	2	1	0	0	0	1	1	28

表5.5.3 外国人学生の出身国(大学院生分)

平成16年度

部門・センター名	中国	韓国	インドネシア	台湾	パレスチナ	ブラジル	ネパール	ナイジェリア	インド	ロシア	ブルガリア	オーストラリア	ポーランド	マレーシア	イラン	合計
・総合防災研究部門	2			1					1		1		1			6
・地震災害研究部門	4	1												1		6
・地盤災害研究部門																0
・水災害研究部門		2	1	1			2									6
・大気災害研究部門																0
・災害観測実験センター	2	3	2				1									8
・地震予知研究センター	1	1														2
・火山活動研究センター			3													3
・水資源研究センター					1	1						1			1	4
・巨大災害研究センター																0
合計	9	7	6	2	1	1	3	0	1	0	1	1	1	1	1	35

表 5.5.4 外国人研究者向け講義一覧

発表者	大学名	国名	年度	講演題目・講義名称等
井口正人	JICA火山学・砂防工学 研修コース	日本	14-16	ハザードマップ
井口正人	JICA研修	日本	17	火山災害
汪 発武	デルフト工科大学	オランダ	14	粒子破碎による高速地すべりの運動機構
汪 発武	長安大学	中華人民共 和国	15	降雨による地すべりのモデル実験と事例研究成果
汪 発武	東北林業大学	中華人民共 和国	15	地震・降雨による高速運動地すべり
王 功輝	中国宜昌地質調査研究 所	中華人民共 和国	16	降雨による高速長距離運動地すべりのメカニズムについて
王 功輝	中国蘭州大学	中華人民共 和国	16	地震豪雨時の高速土砂流動現象について
王 功輝	JICA研修補佐	中央アジア 7ヶ国7人	16	地すべりダイナミクス, 地すべり調査法
石原和弘	JICA火山学・砂防工学 研修コース	日本	14-16	火山性地殻変動
石原和弘	JICA火山学・砂防工学 研修コース	日本	14-16	桜島の火山活動と災害
入倉孝次郎	建築研究所	日本	14-16	地震工学研修 Strong Motion Seismology
植田洋匡	JICA「東アジア酸性雨 モニタリングネット ワーク研修コース」研 修事業	日本	14, 16	大気汚染物質の移流・拡散, 数値モデル
梅田康弘	中国地震局研修団	中華人民共 和国	15	日本の地震活動 (テクトニクス、観測)
岡田憲夫	(社) 北方圏センター帯 広国際センター	日本	14-16	「リスクマネジメント」について・JICA 国別研修「都市計画・土地区画事業」コース講義
片尾 浩	中国国家地震局研修団	中華人民共 和国	15	「Hypocenter and Focal Mechanism determination of micro-earthquake」
河田恵昭	JICA研修センター	日本	14-16	社会基盤施設の災害に対する危機管理コース・地域防災と災害軽減システム
佐々恭二	JICA研修	中央アジア 7ヶ国7人	16	地すべりダイナミクス, 地すべり調査法
佐々恭二	吉林大学	中華人民共 和国	15	都市域地震時大規模地すべり運動予測と防災計画
佐々恭二	防治驪山滑坡弁公室	中華人民共 和国	16	地すべり計測と地すべり危険度評価法
佐々恭二	西安交通大学	中華人民共 和国	16	高速長距離地すべり運動機構
佐藤忠信	北京大学	中華人民共 和国	14	地震工学集中講義
吹田啓一郎	京都大学 建築研究 所・国際地震工学研 修・地震工学コース	日本	14-16	A Short History Of Progress In Ductile Steel Moment Connections
高山知司	中国海洋大学	中華人民共 和国	14	特別セミナー「高潮の数値計算法」
高山知司	中国海洋大学	中華人民共 和国	16	特別セミナー「波によるケーソンの運動シミュレーション」
寶 馨	ユネスコIHP研修コース	マレーシア	16	IHP Activities in Japan
寶 馨	ユネスコIHP研修コース	マレーシア	16	Water Problems in Asia

竹門康弘	釜山大学	大韓民国	15	"Ecological functions of sand-bar structure in river ecosystems" (河川生態系における砂州の生態機能)
立川康人	京都大学	日本	14	IHP トレーニングコースの講義と演習 (Catchment Hydrology および Distributed Hydrologic Modelの演習)
田中賢治	名古屋大学	日本	14	IHP Training Course in 2002 Precipitation and Water Resources 「Land Surface Processes」
中川 一	国立水理学研究所	マレーシア	14	Efficacy Evaluation of Sabo Works
中川 一	JICA研修	ネパール	14	Debris Flow
中川 一	JICA研修		14-16	SABO WORKS
中川 一	マレーシア国立水理学研究所	マレーシア	14	水理計測・解析技術の研修
中川 一	長栄大学	台湾	14	日本における警戒・避難システム
中川 一	マレーシア国立水理学研究所	マレーシア	15	水理計測・解析技術の研修
中川 一	仁済大学	大韓民国	16	水害の発生メカニズムと対策
中川 一	JICA南米医療団研修		16	Current Situation of Flood Disasters in Japan
中北英一	京都大学・名古屋大学	日本	14	The 12th IHP Training Course in 2002, UNESCO レーダー水文学 (Radar Hydrology)
中北英一	Cititel Midvalley	マレーシア	16	The 14th IHP Training Course in 2004, UNESCO 河川管理と水資源 (River Management and Resources)
中島正愛	リュブリアナ大学	スロベニア共和国	16	鋼構造の完全崩壊解析
林 泰一	JICA研修		14, 15, 16	気象実務者研修
林 康裕	Jai Narain Vyas University	インド	16	「To Improve Seismic Performance of Buildings in Urban Area (Earthquake Damage and Revision in the Building Standard Law in Japan)」
林 康裕	モンゴル政府	モンゴル	15	「To Improve Seismic Performance of Buildings in Urban Area」
林 康裕	南カリフォルニア大学	アメリカ	14	「Studies on Building Damage in Recent Earthquakes of Japan」
福岡 浩	JICA研修補佐	中央アジア7ヶ国7人	16	地すべりダイナミクス, 地すべり調査法
福岡 浩	JICA研修	イラン	16	地すべりダイナミクス, 地すべり調査法
藤田正治	ガジャマダ大学大学院特別コース	インドネシア	14-16	洪水および土砂流出制御システムおよび総合的土砂管理
間瀬 肇	青島海洋大学	中華人民共和国	14	波浪予測モデル・大学院特別講義
間瀬 肇	ノッティンガム大学	英国	14	曲線路における孤立波の変形・特別講義
間瀬 肇	リバプール大学	英国	14	曲線路における孤立波の変形・特別講義
間瀬 肇	マンチェスター・メトロポリタン大学	英国	14	曲線路における孤立波の変形・特別講義
間瀬 肇	中国海洋大学	中華人民共和国	15	波浪の浅海変形
間瀬 肇	上海交通大学	中華人民共和国	15	波浪の浅海変形

表 5.5.4 外国人研究者向け講義一覧 (つづき)

三村 衛	Dong-A University	大韓民国	15	Long-term settlement of the Pleistocene Deposits
吉岡 洋	中国海洋大学	中華人民共和國	15	田辺湾における赤潮の観測と予測
吉岡 洋	上海交通大学	中華人民共和國	15	田辺湾における赤潮の観測と予測

表 5.5.5 留学生の受け入れ (単位：人)

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	合計
国費留学生	3	6	5	14
私費留学生	33	27	32	92
政府派遣留学生				0
合計	36	33	37	106

表 5.5.6 海外研究者の受け入れ (単位：人)

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	合計
招へい外国人学者	16	27	13	56
外国人共同研究者	23	40	35	98
合計	39	67	48	154

表 5.5.7 海外の大学における学位論文審査担当一覧

名前	大学名	国名	研究科	年度	論文題目
佐藤忠信	Nanyang Technological University	シンガポール	工学研究科(土木・構造工学専攻: School of Civil and Structural Engineering)	15	Response of a Layered Random Soil Site Subjected to Earthquake Excitation
関口秀雄	National University of Singapore	シンガポール	Department of Civil Engineering	15	Seabed response under wave loadings using a centrifuge
寶 馨	Universiti Putra Malaysia	マレーシア	工学研究科	16	Reservoir Inflow Simulation in the Ungaged Batu Dam Catchment
間瀬 肇	青島大学	中華人民共和國	工程学院	14	Health monitoring of offshore structure
三村 衛	National University of Singapore	シンガポール	Faculty of Engineering	14	Entitled Finite Element Study of Projectile Penetration
三村 衛	National University of Singapore	シンガポール	Faculty of Engineering	14	Characterization of Singapore Lower Marine Clay
三村 衛	National University of Singapore	シンガポール	Faculty of Engineering	16	Engineering Properties of Singapore Old Alluvium
Sidle	University of British Columbia	Canada	Forest Resources Management	14	Contemporary Hydrogeomorphic Process and Hazard Recognition on Forested Fans